

IPNU

キャンパスネット



看護大学の新たなステージへ



学長 石垣 和子

私は、過去6年間学長を勤めてまいりましたが、任期をもう2年間延長して勤めさせていただくことになりました。その理由は看護大学の新たなステージへのソフトランディングの土台をつくるという役割を担うためであると考えております。新たなステージとは一体何のことであるかと思われることでしょう。この場をお借りして少し説明させていただきます。また併せてこれまでのご指導ご鞭撻に感謝し、今後に向けても変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて春・・・、この響きは誰にも心躍る楽しい気持ちや冬が終わる安堵感を呼び覚まします。加えてもうひとつ、新1年生の初々しい姿とともに新しい出発も予感させられると思います。本学もこの春は、石川県の病床数25%削減が発表されたことと併せ、特別な春、何かが始まる春、とも言える状況に置かれています。介護保険が始まった2000年と同じくらい、いえそれ以上とも思えるほど日本の医療の全国的な再編が目前なのです。

多くの方がご存知の「地方創生」と「地域包括ケアシステム」は、病む人にとっても健康な人にとっても住み慣れた地域での末長く安心な生活を保障するものであります。これに対し、医療再編は医療を受ける場が都道府県ごとに大きく見直され、住み慣れた場所での安心な生活の保障とも大いに関係するものです。

看護職は医療や保健・福祉の行われる場所で役割を発揮いたします。今回の医療再編は、本学の開学時には想定できなかった事態であります。今後看護職は在宅の場や福祉施設等で働く機会が増え、一方ではますます高度化する最先端の医療現場に必要な知識・技術も身につける必要があります。すなわち学生の学ぶ範囲が広まり、そして各々の知識・技術が高度化・専門分野に焦点化するということであり、教育内容や方法を大きく見直す必要に迫られています。これが本学の新たなステージです。

本学は、県立の大学として石川県の看護ニーズを満たす看護職を養成することを目指して思い切った教育改革を目指したいと考えているところです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

助産師養成課程(大学院)の新設に向けて

— 魅力ある大学づくりの支柱となる —



母性・小児看護学講座 母性看護学教授 濱 耕子

国内では看護職の役割拡大や助産師養成の高等教育化の流れにあり、本学も平成30年春の大学院助産師養成開始に向けて準備を整えています。

石川県では、いしかわ総合母子医療センターをはじめとした高度医療機関、院内助産や不妊相談センター等で活躍する助産師が多く、石川県立看護大学大学院の使命として、妊婦健診から分娩管理・産後までの一貫したケア、ハイリスク妊産婦や育てにくさを感じる親への支援ならびに各部署・地域と連携する力をもつ助産師の育成が望まれています。

様々な教育課程が存在するなかで、本課程が県内の助産サービスの質、ひいては国内の母子保健の向上に貢献できる大学院としての教育水準を維持し、学生のみならず県民の方々にとっても魅力ある大学院となるよう専心していく所存です。修了生が高度実践力と研究的視点で開拓できる助産師になる「芽」を息吹かせ、各々の場で活躍できるよう、多くの皆様にご指導・ご支援をいただければ幸いです。

卒業式



平成29年3月18日(土)、平成28年度卒業式・学位授与式が挙行政され、看護学部90名が卒業、看護学研究科博士前期課程7名、博士後期課程3名が修了し、学位記が授与された。

学長の告示として石垣学長は、今後の医療はAIの導入と高度医療の頭打ち状態による訪問看護の重要性という2つの大きな変革が起こるが、いずれも看護師・保健師の役割は大きく、期待に答えられるよう、それぞれの役割や責任を果たして欲しいと激励された。

谷本知事は、助産課程の新設と認知症専門看護師課程の設置を告示され、看護職の人材養成に対する本学と卒業生への期待を祝辞とされた。卒業生答辞として栗梓沙さんは、大学生活を回顧し、新生活に対する決意を述べた。在学生送辞では西村陸さんが、先輩との思い出と感謝の言葉を卒業生に贈った。

卒業記念品として寄贈された学歌額は、講堂に設置され、これから入学・卒業する後輩の学歌斉唱を見守ることとなった。

式後、講堂の外では、卒業生を出迎える在学生らが、花束などを手渡したり、胴上げをしたりするなどして新たな門出を祝っていた。ご卒業おめでとうございます。

学生部長 長谷川 昇

卒業生の言葉

看護学部4年 栗 梓沙

本学に入学してからの4年間は、これから看護の道を歩む私たちにとって意義ある貴重な時間でした。もっとも思い出深い経験は臨地における看護学実習でした。それまでの学びを発揮する機会であるという意気込みと共に、患者さんに適切な看護ができるのだろうかといった不安や緊張を抱きながら実習に向かった事を覚えています。思い描いた看護を実施する難しさや、自分の至らないところにも気がつきくじけそうになる度に、周りに支えられ乗り越えることができました。卒業の日を迎え、講義だけでは看護について理解できなかった実習の経験をこれからの自分達の力にしていきたいと思います。

修了生の言葉

大学院博士後期課程 久米 真代

本学に入学してから今日までの数年間を振り返りますと、ほとんどの時間を「看護」の追究に捧げてきました。臨床や教育の現場で知っていたこと、見ていたこと、考えていたことは、知っていたつもり、見ていたつもり、考えていたつもりであったことに気が付き愕然とするこの連続でした。

その中で、研究を持続する力となったのは研究に協力してくださった高齢者の方々の反応や臨床の方々の実践知でした。これからも臨床の現場で起きている現象を知ろうとし、小さくても形にして示すことで「看護」の愉しさ、嬉しさ、悦びを人に伝えていける存在でありたいと思います。

学長表彰

平成28年度学長表彰は、成績優秀者として栗梓沙さんと、「津幡町興津地区の地域資源を生かしたむらづくり」に取り組んだ吉村友里子さんと藤井悠希さんに贈られた。



栗 梓沙さん



吉村 友里子さん



藤井 悠希さん

教員紹介



看護キャリア支援センター 特任准教授 徳田(伴) 真由美

平成28年5月に着任しました。以前に本学の在宅看護学領域で勤務していたことがあります。7年ぶりに大学に戻りました。かほくの自然やまち、大学、関係機関、地域の方々は懐かしく、新たな出会いもあり、お世話になっております。

28年度は、看護キャリア支援センターや地域ケア総合センターの仕事に携わりました。29年度は、認知症看護認定看護師教育課程が開講となります。認知症看護認定看護師を目指す皆さんとともに学びながら取り組んでいきたいと思っております。関心のある方はお声をかけてください。



看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育課程 専任教員 嶋田 由美子

平成28年5月に着任いたしました。着任前の公立松任石川中央病院では、感染管理認定看護師として感染管理の専従業務を行っていました。感染管理認定看護師教育課程に携わった7ヵ月間は、教育課程で学ぶ20名の履修生と共に、感染管理に必要な知識・技術はもちろんのこと、医療・看護・介護における感染管理の在り方をじっくり見つめ直すことができました。また、人間力も勉強させていただきました。4月から病院へ戻りますが、感染対策の事でお困りのことがありましたら、いつでもお声かけ下さい。



がんプロ特任助手 瀧澤 理穂

平成28年4月にがんプロ特任助手として着任しました。また、私は同年より、本学大学院博士前期課程成人看護学領域がん看護CNSコースに在籍しています。

がんプロ特任助手の仕事を通して、自身の看護実践を振り返るとともに、がん看護に携わる看護師が何に悩み、どのような教育を求めているのか、地域の取り組みとして何が必要かを改めて考えることが出来ました。学びと成長の機会を頂いたことに感謝し、今後もこの経験を活かして学業に励んでいきたいと思っております。

Topics

大学における教員と事務局は車の両輪

～本学で行われるすべての事業には必ず事務担当者がいます～

みなさんは大学において、教育研究・社会貢献活動などが円滑に運営される上で事務局の力が大きいことをご存知ですか？

本学の事務局は大きく分けて大学の人・物・システム等の管理に携わる「総務課」と学生生活・教育・入試等の事務を分掌する「教務学生課」で構成されています。

大学の運営に必要な予算の確保と執行、年間の大学運営計画、講義室や実習室の管理、学生の入学から卒業までの学修のために欠かせない履修登録から単位認定、非常勤講師への対応、研究費の獲得支援など多岐にわたります。

事務職員は、それぞれの専門知識や経験を活かして、石川県公立大学法人本部とも密接な連携を図りながら、日々、学生や院生のみなさんの入学から卒業(修了)までの様々な場面で学生生活のお手伝いをしています。今回は、本学の縁の下の力持ちとして仕事に取り組む事務局のある日の様子をご紹介します。

18:00



夜の警備も安心、定期巡回での見守り体制づくりも事務局管轄

8:30



事務局長と総務課長の打合せ

15:00



山積みの書類を素早く処理する最強総務課メンバー



10:00



教務学生課職員は学生へ丁寧に手続きを説明

12:00



食堂の運営も事務局の管轄「ご利用をお待ちしています。」

SeonAe Yeo教授を招聘し、 大学院国際看護特論Ⅰ・特別講演会を実施しました

平成28年8月27日(土)～9月2日(金)の期間、ノースカロライナ大学チャペルヒル校看護学部教授のSeonAe Yeo教授が、本学研究科の国際看護特論Ⅰの招聘教授として来学された。国際看護特論のゼミには15名の院生が受講し、3名が聴講した。「Writing for Publication:What does it take to achieve a success that you deserve」をテーマとした講義の他、各学生の研究のコンサルテーションを実施していただき、院生は今後の研究に取り組む上での助言を受けた。また、8月29日(月)には、「看護におけるものの見方・考え方」と題した海外招聘特別講演を実施し、学内外から多くの参加者が聴講した。講演では、ナイチンゲールを含む、欧米の・アメリカの看護理論家のものの見方・考え方などを基に、具体的なエピソードを交えてお話いただいた。

研究科長 牧野 智恵



SeonAe Yeo教授と受講生



SeonAe Yeo教授の講演会風景

夏期アメリカ看護研修に参加して

私は8月26日から9月8日までの夏期アメリカ看護研修に参加しました。

ゴスマンシミュレーションセンターでは、出産する児の回旋や胎盤モデルの見学ができました。男女ともに活躍するアメリカの助産師の特徴や、自然分娩が広まっている日本との共通点について学び、興味をもちました。

研修が始まった頃は英語を聞き取るのが難しかったですが、日に日に耳が慣れ英語で会話をするのが楽しくなってきました。

研修全体を振り返って、日本の看護、医療について考えるとても良い機会となりました。今回の研修で得たことを忘れず、今後活かしていきたいと思えます。

看護学部3年 中村 佳穂



平成28年度大学間連携共同教育推進事業 「ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト」

— 海外における地域保健医療体制を学ぶ —

タイ王国 チェンマイ大学看護学部研修報告

本学は、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」として『学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築』の一つ、「ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト」事業に主体的に取り組んできました。その一環として平成28年8月27日(土)～9月11日(日)の16日間、国立チェンマイ大学看護学部での看護研修に11名が参加しました。参加者の内訳は石川県立看護大学学生7名、金沢大学学生2名、引率教員2名でした。

この研修で学生は、タイにおける政治や歴史・文化、社会経済体制の異なる国での保健医療システムを知り、地域住民の暮らしや健康課題への対処方法について学び、国際看護の視野を広げることができました。今回、国立チェンマイ大学看護学部で用意して下さった研修プログラムにより、様々な体験を行うことが出来ました。



チェンマイ大学正門前で



救急外来看護師長さんと

【研修での学び(参加学生より)】(一部抜粋)

特に印象に残ったプログラムは、トラウマケアである。タイの死因の第二位に交通事故が挙げられ、トラウマケアは重要な役割があるということがわかった。タイでは交通手段としてバイクが多く使用されているが、ヘルメットをしていない人が多い。また、三人乗りなど何人も乗り合わせていることも多い。さらに車間距離も短く、これらが事故件数を多くしている原因だと思った。タイの人は事故にあった時に、自分が悪かったと思うのではなくて運が悪かったと捉え、こういった仏教国ならではの考え方も事故が減らない原因と感じた。

国際交流のつどい

平成29年2月8日(水)、学生の国際的な視野を広げる一助として、文化の違いや習慣の違いの中で活躍されている3名の講師(モレノ・アレハンドロさん、盧冬麗さん、南田里美さん)をお招きし、講演とフリーディスカッションを楽しみました。参加学生は「3人のお話を聞いて、他国のことにとっても興味が深まった」「他国での医療の違い、文化の違いが印象に残った」「外国で働いたり、国際的な活動をするのは遠い話だと思っていたが、実際に話を聞くと身近に感じる事ができた」「まず行動してみることが大切だとわかった」など、和やかだけど刺激的な、笑顔の絶えない交流会となりました。



JICA青年海外協力隊に参加した南田里美さん

卒業生・修了生に聞く

修了生からのメッセージ

「私にとってがん看護はひきつけてやまない魅力があった!」

忘れもしない“先生のバカ”といつも物静かな方だと思っていた患者さんが叫んだ。私が20代の頃、がん末期の患者さんたちが苦悩の中で亡くなっていく姿を目の当たりにし、看護師の無力さを実感していた。そのような中、看護実践力を高めたいとがん化学療法認定看護師、そしてがん専門看護師へと貪欲に学び続けてきた。がん看護は人間としての自己の価値観が問われ、患者と向き合う中で自己成長も得られたと思う。どんなつらい状況でも生きていること自体に意味があると大学院で学んだことが、がん看護の実践につながった。



チームカンファレンスで意見を集約



自宅へ帰るがん患者の支援をつなぐ

今、がん看護専門看護師となって『患者さんを最前線で支えている看護師たちの力を大切に、自分はスペシャリストとしてプラスアルファ何ができるか』をいつも考えている。福井大学医学部附属病院で治療を受けたがん患者を、北陸の専門看護師のネットワークを活かして患者の暮らす地域でサポートを受けられるよう県境を越えて支援し始めた。患者と家族のために自分に何ができるかこれからも問い続けたい。

福井大学医学部附属病院 地域医療連携部 がん看護専門看護師 (平成27年度修了生) 久保 博子さん

卒業生からのメッセージ



「追い求めた夢をつかんで、保健師として働くこと」

卒業してから予防医学にかかわる仕事に従事してきましたが、嘱託の保健師を経て平成29年度よりかほく市で保健師として採用、働きはじめました。今までは成人が主な対象でしたが、行政の保健師は新生児から高齢者まで幅広い世代の方々を対象なので、分からないことや戸惑うこともありました。諸先輩方に教えてもらい、様々な職種が連携・協力しながら事業を展開し、住民の健康を支えている事を知り、今はやりがいを感じています。これからもその一端を担えるよう頑張っていきたいと思います。

かほく市 保健師 (平成21年度卒業生) 木下 知香さん



「いのちの誕生に立ち会える喜びは大きい」

私は大学卒業後、助産師の資格を取得するために金沢大学大学院へ進学しました。研究をしながら助産学を学ぶことはもちろん大変なことも多かったです。充実した2年間を送ることができました。そして今、助産師として働きはじめて3年目。母親と赤ちゃん2つのいのちを預かる責任は重いですが、それ以上にいのちの誕生の瞬間に立ち会えることができる喜びは大きいです。優しい先輩方に支えられ、妊婦さんや赤ちゃんたちに癒されながら毎日楽しく働いています。

金沢大学附属病院 助産師 (平成24年度卒業生) 吉田 綾さん

地域ケア総合センターより

か歩く健康ウォーキング事業

地域ケア総合センターは平成28年度から始まった「か歩く健康ウォーキング事業」にかほく市、イオンモールかほくと一緒に参加しています。

血管についてのミニ講話や体験コーナー、健康チェックに多くの方々のご来場、ありがとうございました。また歩数計を活用したウォーキングにも248名の方の登録があり、改めて健康への関心の高さを実感しました。

今回の事業が私たちの健康にどのような影響しているのかの分析はこれからですが、「いつまでも元気で長生き」を目指して平成29年度もご協力させていただこうと考えています。

地域ケア総合センター長 武山 雅志



看護キャリア支援センターより

新たな看護職者のキャリア支援を拓く

平成29年2月15日(水)に修了式が行われ、感染看護認定看護師教育課程では20名、今年度から開設した認定看護管理者(サードレベル)教育課程では28名が修了しました。



感染管理認定看護師教育課程修了生



認定看護管理者(サードレベル)教育課程修了生

感染管理認定看護師教育課程は平成26年から3年間にわたり開講し、48名の感染管理認定看護師が誕生しています。修了生が全国の病院を中心に、ネットワークを創りながら地域の医療に貢献しています。平成29年度には、新たなキャリア支援として認知症看護認定看護師教育課程(定員30名)を開講いたします。これからも、看護の社会的ニーズに応える優れた看護実践能力を持つ看護職者の育成にご支援下さいますようお願いいたします。

看護キャリア支援センター長 丸岡 直子

附属図書館より

「文献検索のコツ：アドバンス編」研修会

研究活動において文献検索は重要なステップです。しかし、欲しい文献を効率的に見つけるのは難しいものです。そこで、図書館では院生・教職員を対象とした標記の研修会を、平成28年12月26日(月)に地域ケア総合センター研修室にて開催しました。

講師は本学健康科学領域の大木秀一教授にお願いしました。参加者は46名、終了後のアンケートによると、満足81%、今後活用できる97%と好評を博しました。また、「改めて自分のできていない部分、できていた部分を知ることができた」、「今までやっていた方法がとても甘いものだと感じた」などの感想も寄せられました。

図書館長 西村 真実子

専門看護師(CNS)認定審査合格

平成28年12月13日(火)に平成28年第26回専門看護師認定審査合格者が発表され、本学大学院CNS課程修了者4名が合格しました。

合格者 【がん看護専門看護師】

久保 博子さん(27年度修了)
高野 智早さん(27年度修了)
時山 麻美さん(27年度修了)

【小児看護専門看護師】

風間 邦子さん(23年度修了)



卒業生の内定状況

平成29年3月31日現在の就職内定・進学状況は次のとおりとなっています。

<県内就職内定・進学先>

【看護師】石川県立中央病院、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、公立松任石川中央病院、金沢医療センター、金沢赤十字病院、公立能登総合病院、浅ノ川総合病院、七尾病院、金沢子ども医療福祉センター、加賀市医療センター、公立羽咋病院など

【保健師】石川県

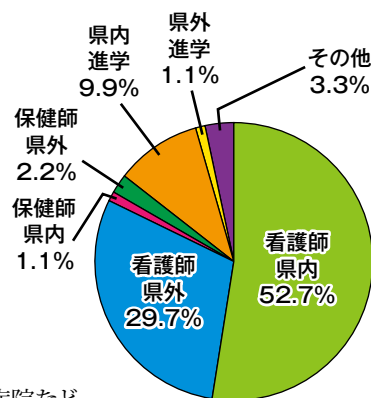
【進 学】金沢大学養護教諭特別別科、金沢大学大学院保健学専攻助産学分野

<県外就職内定・進学先>

【看護師】富山県立中央病院、富山大学附属病院、敦賀医療センター、高山赤十字病院、信州大学医学部附属病院、国立国際医療研究センター、がん研有明病院、NTT東日本関東病院、神戸市立医療センター中央市民病院など

【保健師】黒部市、入善町

【進 学】新潟大学養護教諭特別別科



平成28年度卒業生内定状況

国家試験結果

平成28年度看護師・保健師国家試験合格状況(第14期生の状況)

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率
看護師	91名	84名	82名	97.6%
保健師	91名	91名	83名	91.2%

平成29年度 キャンパススケジュール

前 期		後 期	
入学式	4月 5日(水)	授業開始	10月 2日(月)
ガイダンス・健康診断	4月 6日(木) ~ 4月 7日(金)	履修登録受付	10月 6日(金) ~ 10月 11日(水)
授業開始	4月 10日(月)	大学祭(看大祭)	10月 28日(土) ~ 10月 29日(日)
履修登録受付	4月 6日(木) ~ 4月 12日(水)	秋のオープンキャンパス	10月 28日(土)
開学記念日	5月 29日(月)	冬季休業	12月 23日(祝) ~ 1月 4日(木)
夏のオープンキャンパス	7月 15日(土)	補講・試験	2月 9日(金) ~ 2月 20日(火)
補講・試験	7月 31日(月) ~ 8月 8日(火)	春季休業	2月 21日(水) ~
夏季休業	8月 9日(水) ~ 9月 30日(土)	卒業式・学位授与式	3月 17日(土) 予 定
夏期アメリカ看護研修	9月 1日(金) ~ 9月 14日(木)		

夏のオープンキャンパス
7月15日(土)開催!



石川県公立大学法人

石川県立看護大学 看護学部看護学科 大学院看護学研究科

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地 TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319

URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp> e-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

版權は石川県公立大学法人に帰属します



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。